

## 仙人通信 194 六ッ石山(1478m)

六ッ石山は、雲取山から奥多摩駅へと連なる石尾根上にあり、小河内ダムの北側に座する三等三角点の山である。又地層的には、小河内層群・雲取山層中部層であり、東側を仏像構造線が走っている山でもある。

小河内ダムサイドにある公園の駐車場に車を置き、水根沢沿いの『むかし路』にある登山ポイントからトウノクボを経て山頂を極め、隣の狩倉山(不老山)をピストンする事にした。

現在の国道 411 号が造られる前の街道筋であったろうか『むかし路』には、数軒の民家と不動明王を祀った神社がある。そんな沢沿いの道の土手には、ヤマエンコザク・オダマキ・クサノオ・ウツギ等が咲き迎えてくれた。国道から 15 分程で登山口を示す道標である。民家と水道設備の間を進むと直ぐに杉林に突入である。足元には、フタリシズカヤマムシウが咲き始めていた。15 分程で赤い鳥居の産出神社があり、裏手を水根沢方向に登る。

杉の梢越しではあるが、奥多摩湖の群青色の湖面が望めた。10 分程で右上にある尾根へと登り、ほぼ真っすぐ上に九十九折のコースが望める。幹の径が 15~20 cm 程の杉の木立で足元は、根と礫岩のかなり急な登りが続く。30 分程で左手に水檜や楓の林となり、ハルゼミやヤマアオガエルの合唱に元気を貰い、更に 10 分程で風の神を祀った小さな社だ。

右手にブナやサクラの木となり明るく成るも、コースは更に急斜面の杉林だ。

35 分程登ると杉から唐松となり、明るい尾根歩きだ。更に 10 分(登山口から 1 時間 50 分)でトオノクボ(榛の木尾根)の分岐である。ここからは幅 30m 程あろうか防火帯の尾根コースとなる。足元では大きな葉のフキ・蕨・黄色いキジムシロやヒカゲスミレが、林の中には白い花を付けた朴の木や赤い山躑躅又白く半化粧した木天蓼と、先程の杉林とは違い軽い足取りで 45 分程登ると山頂である。山頂は比較的広いものの周囲は、カラマツや落葉樹で覆われおり、展望は良くない。梢越ではあるが、カヤの木山・白山・水根山そして頂点に鷹ノ巣山が、北方向には三つドッケが、又南側には御前山である。

山頂から奥多摩方面に向かう石尾根の防火帯を 15 分程で、狩倉山(不老山)である。奥多摩駅への下山コースから外れた山頂には、山頂を示す道標等は何もないが、地図で確認した。

(2 回続けて不老山・・・だ)

入梅直前に六ッ石山頂の木陰でゆっくり休憩を取る事ができ、登ってきたコースを下山した 5 時間 50 分(24000 歩)の山旅とする事出来ました。 (R1.6. 6)

山頂



山頂風景



鷹ノ巣山等

狩倉山山頂